

2015. 10. 31 日本社会心理学会第56回大会発表資料

つけっぱなしの電灯を消すのは誰か



柿本 敏克 ・ 安藤 香織
(群馬大学) (奈良女子大学)

キーワード： 地域、帰属意識、環境配慮行動、節電行動、主観的規範

問題

- つけっぱなしの電灯

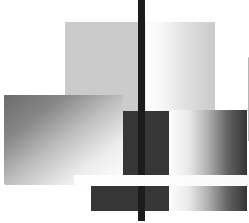
使われていない部屋や廊下の電灯が、つけっぱなしになっているのに気づく時

問い

- ・ 誰が電灯を消すべきなのか(→責任の帰属)
 - ・ 誰が実際に消すのか(→節電行動)
- 影響

- **個人の責任**が明確な場面とそうでない場面で、責任帰属に違いがあると予想 → 誰が実際に消すのかも違ってくる予想

- 本研究では、節電行動の規定因を**個人の責任の明確さ**の異なる2種類の場面で探る。



問題（関係が予想される変数）

- 組織や地域に対する帰属意識：

組織や地域の問題解決への取り組みや、活動への参加を促す（安藤・広瀬, 1999; Haslam, 2001など）。

これらの帰属意識は、組織や地域の持続的な発展や、長期的展望にもとづく問題解決を志向させるため、環境配慮行動（その一種としての節電行動）を促すと予想。

- 先行研究

- 野波・加藤(2009)は、琵琶湖岸の集落調査により、地域への帰属意識(コミュニティ・アイデンティティ)が、住民の環境に配慮した生活や集団活動を促すことを見出した。
- 柿本・安藤(2013)は、大学生の3R行動の実行度に、地域への帰属意識が有意な影響を与えることを見出した。



- 地域への帰属意識、組織への帰属意識が高いと、個人の責任が明確でない場合でも、節電行動が生じると予想。



問題（つづき）

- 友人間での行動観察

親子間での行動観察が環境配慮行動の伝播に重要な役割を果たすことを踏まえ (Ando et al., 2015)、友人間での行動観察が環境配慮行動に及ぼす影響についても検討する。

- 主観的規範、個人的規範

あわせて、先行研究 (Ando et al., 2010他) で効果の見られた主観的規範 (節電に関する家族と友人からの期待度) や個人的規範 (節電行動の個人的価値観への合致度) が、環境配慮行動に及ぼす影響についても探る。



方法

- ・ 調査対象：国内4大学の大学生
- ・ 調査期間：2014年5月～6月
- ・ 有効回答数：123組(246名)
- ・ 手続き：授業時に学生に2組の質問紙を渡し、1つを親しい友人に渡して回答してもらうよう依頼。回答後2人の回答を1つの封筒に入れてもらい、大学において回収。

(論文集の原稿と違い、本日はペアデータ全体を使った分析を示します)



方法 つづき 1

- 質問紙の項目：
 - 地域(大学)への帰属意識 4項目

「私はこの地域(大学)と強い結び付きを感じる」

「私はこの地域(同上)が好きだ」

「私はこの地域(同上)に愛着を感じる」

「私はこの地域(同上)に住むことに(通うことに)誇りを感じる」

(1まったくあてはまらない～5たいへんあてはまる の5件法)



方法 つづき 2 (質問項目)

- 節電行動 「日頃、次のような行動をどれくらい実行していますか。」
(2つの場面)
 - 「部屋の明かりをこまめに切る」(個人の責任が明確な場面)
 - 「大学の教室で電気が授業後につけっぱなしになっていたら、消している」 →こちらには大学への帰属意識が影響すると予想
(1まったく実行していない～5いつも実行している の5件法)
- それぞれ回答者本人の実行度と、友人および所属大学の学生の実行度認知を尋ねた。
- 質問紙には他の節電行動や3R行動等について尋ねる項目も含まれていたが、今回は分析対象としなかった。



方法 つづき 3 (質問項目)

- **主観的規範(関連する節電行動の家族と友人からの期待度)**

- 「私の家族から、私が冷暖房を効き過ぎないようにすることを期待されている」
- 「大学の友人から、私が冷暖房を効き過ぎないようにすることを期待されている」

(1まったくそう思わない～5たいへんそう思う の5件法)

- **個人的規範(関連する節電行動の個人的価値観への合致度)**

- 「個人的価値観では他の人がどうしようと、私自身は環境のために冷暖房を効き過ぎないようにしなくてはいけないと感じる」
- 「冷暖房を使いすぎることは環境保全という個人的価値観に反している」

(1まったくそう思わない～5たいへんそう思う の5件法)

結果 節電行動1 (「部屋のこまめな消灯」行動)

Table 1 部屋の消灯の実行度¹⁾の規定因

	β	
大学への帰属意識	.14 ⁺	大学への帰属意識の影響あり
地域への帰属意識	.00	
主観的規範	.12	主観的規範・個人的規範の影響なし
個人的規範	.02	
友人の実行度認知	.16*	友人・所属大学の学生の実行度認知の影響あり
所属大学の学生の実行度認知	.13 ⁺	
地域(市町村)の人々の実行度	-.04	
<i>F</i> 値	3.68***	
調整済み <i>R</i> ²	.07	

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ + $p < .10$

1) 回答者本人の実行度が従属変数

欠損値のあるケースを除き234名のデータを使用

結果 節電行動2 （「大学の教室消灯」行動）

Table 3 大学の教室消灯の実行度¹⁾の規定因

	β	
大学への帰属意識	.15 *	大学への帰属意識の影響あり
地域への帰属意識	-.00	
主観的規範	.13 ⁺	主観的規範・ の影響を示唆
個人的規範	.00	
友人の実行度認知	.01	
所属大学の学生の実行度認知	.03	友人と所属大学の学生の実行度 認知の影響なし
<i>F</i> 値	1.91 ⁺	
調整済み <i>R</i> ²	.02	

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ + $p < .10$

1) 回答者本人の実行度が従属変数

欠損値のあるケースを除き234名のデータを使用



考察 1

- いずれの節電行動についても、組織(大学)に対する帰属意識が実行度に有意な影響を及ぼした。
→場面による差を予想したが、差はなかった。
- 「大学の教室消灯」のみに、主観的規範の影響が示唆された。→主観的規範の影響の強さを示す。
- 個人的規範はいずれの節電行動の実行度にも有意な影響を及ぼさなかった。
→今回は直接「消灯」に関する規範を測定しなかったためか。
- 「部屋の消灯」行動のみに、友人とクラスメイトの実行度認知がともに影響を与えていた
→個人的場面での節電行動に友人の実行度の影響があることは妥当。クラスメイトの実行度の影響も、模倣・般化などを仮定すれば妥当。



考察 2

- 「大学の教室消灯」に、友人とクラスメイトの実行度認知が影響を与えないのは、それが模倣・般化が起こりにくい状況だからでは？

- 結論（表題の問いへの本研究からの答え）
 - 1（個人的に実行しやすい状況で）つけっぱなしの部屋の電灯をこまめに消すのは、大学への帰属意識が強い学生、あるいは「友人」や「クラスメイト」も同様の行動をとる人。
 - 2 つけっぱなしの大学の教室の電灯を消すのは、大学への帰属意識が強い学生、あるいは節電に対する主観的規範（周囲からの期待）が強い人。



おわり

ご静聴有難うございました。

結果(参考)ペアデータの一人目のみ使用 節電行動1-2 (「部屋の消灯」行動)

Table 1 部屋の消灯の実行度¹⁾の規定因

	β	
大学への帰属意識	.09	帰属意識 の影響なし
地域への帰属意識	.09	
主観的規範	-.04	主観的規範・ 個人的規範 の影響なし
個人的規範	.10	
友人の実行度認知	.14	
所属大学の学生の実行度認知	.26*	所属大学の学 生の実行度認 知の影響あり
地域(市町村)の人々の実行度	.01	
<i>F</i> 値	2.29*	
調整済み <i>R</i> ²	.07	

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$

1) 回答者本人の実行度が従属変数

欠損値のあるケースを除き117名のデータを使用

結果(参考)ペアデータの一人目のみ使用 節電行動2-2 (「大学の教室消灯」行動)

Table 2 大学の教室消灯の実行度¹⁾の規定因

	β	
大学への帰属意識	.09	帰属意識の影響なし
地域への帰属意識	-.12	
主観的規範	-.10	主観的規範・個人的規範の影響なし
個人的規範	-.06	
友人の実行度認知	.30**	
所属大学の学生の実行度認知	.28**	友人と所属大学の学生の実行度認知の影響あり
F 値	8.35***	
調整済み R^2	.27	

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$

1) 回答者本人の実行度が従属変数

欠損値のあるケースを除き117名のデータを使用